

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290400068		
法人名	有限会社 居宅支援ハート		
事業所名	ハートハウス(A棟)		
所在地	青森県黒石市あけぼの町105-2		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問看護事業所との連携や看護師資格を持った職員を多く配置し、入居者様の重度化や終末期にも対応している。
機能低下を防ぐ目的で、体操の時間を午前と午後の1日2回設けている他、できる範囲で手伝いを行ってもらおう等、1日の生活にリズムが保てるよう、職員一人ひとりが取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは独自の「夢叶えます」という取り組みを実施しており、利用者個々が希望する身近な事や食べ物等をさりげなく聞き出し、実現できるように支援している。また、その成果を皆で楽しみ、味わい、喜んでいる。
家族との連絡等にラインを活用している他、職員間でもグループラインを活用し、相互連絡や利用者に関する気づき等を共有しながら、より良いサービス提供に向けて取り組んでいる。
また、看護師資格を持つ職員が多く、利用者が健康管理面や医療面でも安心して過ごせる環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に入ってすぐの場所と各棟ホールの見える所に掲示しており、常に確認して意識できるようにしている。	設立者の看護師経験と思いをベースにし、地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を作成している。理念はホール等の目につく所に掲示している他、iPadの画面でも確認する等、職員間で共有しながら日々のサービス提供に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、事業所で広報紙を作成しており、近隣や警察署へ配布し、施設内の活動や日常の様子を伝えている。町内清掃や地域の行事へも参加している。	町内会に加入しており、毎月発行する広報誌を町内会の回覧板に挟み、ホームの取り組みを地域に発信している。また、コロナ禍前はボランティアの受け入れを行う等、地域住民と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に入居者様が職員と一緒に参加し、その状況を知ってもらうことで、認知症状の特徴や対応を理解していただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事や事故についての報告の他、施設が今どのような状況で、何に問題を感じているかを伝え、他職種の皆様から意見を頂戴している。	現在はコロナ禍のため、運営推進会議は書面により開催しており、ホームの取り組み状況等を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	待機状況や空室状況の定期連絡の他、事故発生時や御家族を含めた困難事例への相談をさせていただいている。	市の担当課職員や地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーとなっており、ホームの実態を理解していただいている。また、ファックスやメールで連絡事項が届いたり、必要に応じて課題解決に向けて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活の中でできるだけ拘束をしないよう職員間で対応策を話し合い、取り組んでいるが、入居者様の状況でやむを得ず拘束を行う場合は御家族へ事前に説明し、同意を得ている。	毎月の学習会等を通じて、職員は身体拘束の内容やその弊害について理解を深めている。また、警察署に広報誌を届けたり、近隣住民とも顔馴染みの関係を構築し、万が一の無断外出時に協力が得られるよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議で資料を基に学習し、虐待が起こらないよう職員間で注意している。また、各棟ホールに設置したカメラで状況を確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場会議内の学習会や外部研修へ参加し、その資料を活用して、職員で知識を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去や必要時に契約書や重要事項説明書を用いて説明し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来園時に意見や要望を確認する機会を設けている。施設内には意見箱を設置しており、直接言いにくい内容の事であっても、意見を出してもらえるようにしている。	日頃から利用者や家族との信頼関係を築けるように心がけ、意見等の把握に努めている。また、家族の面会時に要望等を聞き出すようにしているが、直接話せない場合にはライン等も活用して把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、どのような状況であっても随時相談できる環境作りを心がけている。また、ラインアプリを職員間で活用しており、直接会わなくても連絡や相談ができるようにしている。	月1回、代表も出席する全体会議があり、業務の改善策等を話し合っている。また、職員間のグループラインを活用したり、アンケートや面談を実施する等、職員の意見把握の機会を多く設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長が主となり、職員に対してアンケートや面談を実施している。その時々々の意見や要望を聞き取り、随時就業環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修を活用し、職員が個々に学習できるようにしている。また、外部研修への参加は勤務の調整を行い、職員に負担がかからないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連合会に所属し、定期的に研修会を開き、同業者と交流できる機会を設けている。他施設の行事に参加したり、他施設の方をこちらへ招待し、交流を図ることもある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人から不安や要望を傾聴している。また、御家族等からも本人に関する内容を聞き取り、本人が安心して生活できるよう、職員間で情報を共有し、サービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で本人に関する内容の他、料金や入居後の御家族の接し方等、気になる点がないか確認している。入居後も随時連絡を取り合い、協力関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族、必要があれば前任のケアマネジャーやワーカーと連絡を取り、支援計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人のできる事、できない事を普段の生活状況からくみ取り、日常生活で役割が持てるようにしている。入居者様が一方的に介護される側ではないという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出等、御家族が協力できる範囲の事は御家族で対応してもらうようお願いしている。また、職員が対応した受診内容や日常生活の出来事について、随時報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院やかかりつけ医への受診は、希望に合わせて継続利用が可能である。制限がなければ、面会も自由に行っている。	これまで関わってきた人や馴染みの場所等を、入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションの中から把握し、その関係を大切にできるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の手伝いやレクリエーションを通し、職員が間に入ることで、普段から交流が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合であっても、必要とする情報提供に努めており、随時相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から本人の要望を聞き、施設が提供する「夢叶えます」に取り入れることで、希望が実現できるようにしている。	ホーム独自に「夢叶えます」という取り組みを行っており、利用者が希望する身近な事や食べ物等をさりげなく聞き出し、それを実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を基に、本人との会話や御家族との聞き取りから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活環境や現在の状況について情報を集め、職員間で共有している。入居後の生活状況の変化についても記録し、本人の状況に合わせて支援できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化について日々記録し、情報を共有している。計画作成担当者が情報を収集し、プラン作成に活かしている。	利用者がその人らしく暮らすことができるよう、個々の状態や希望に合わせ、利用者本位の個別具体的な計画を作成している。また、毎月モニタリングを行っている他、家族の希望等に変化がないか、面会時やライン、電話等を利用して把握するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況や日々の会話を経過記録へ記入している。両ユニットの情報を職員全員で共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一般浴での入浴が困難な場合は簡易浴槽を使用し、寝たままでも入浴できるようにしている。また、看取り介護にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニに協力してもらい、職員付き添いで買い物ができるようにしている。また、近所への散歩や行事参加を通し、交流を図れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、本人や御家族の意向に沿った医療機関を受診している。入居後、本人の状況に変化があれば、御家族や主治医と話し合い、本人の状況に合わせた医療機関につなげている。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、受診結果はラインや受診ノート等を活用し、家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、提携している訪問看護師の来園がある。また、日々の生活状況等の記録を共有できる環境となっている。急変時は随時相談・対応できる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時すぐに情報を提供し、早期退院につながるよう、都度連絡を取り合っている。退院時は事前に入院機関へ面談に行き、本人の状況を見ながら、施設環境を整える等の対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況を見ながら、随時御家族とも相談し、早い段階で意向を確認している。医師の指示に基づき、看護・介護で対応する内容を確認し、御家族へもできる限り協力してもらいながら、対応にあたっている。	重度化や終末期の対応について、入居時に指針で説明してホームの方針を明確にしておき、医療機関や家族と連携を図りながら支援する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法や事故発生時のマニュアルに沿って対応している。また、学習会等でも情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や近隣の方々の協力を得ながら、定期的に訓練を行っている。災害時に備え、食料やオムツ類も準備している。	コロナ禍前は町内会にも呼びかけをして訓練を実施しており、近隣住民や警察署、消防署から理解・協力が得られるように働きかけている他、回覧板で避難訓練実施の情報発信にも努めている。また、災害発生時に備え、自家発電機も用意しており、実際に東日本大震災の時にも活用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の介助は本人の気持ちに配慮しながら、必要以上の職員対応は行わないようにしており、個人を尊重した声かけをするように努めている。	広報誌への写真掲載や施設内の写真掲示について配慮しており、個人情報の同意書には家族に署名捺印をいただいている。また、ホールにはカメラを設置しており、代表が確認し、必要時には職員に注意や指導をしながら、より良いケアに結び付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話等から希望や思いを汲み取っている。個別で話をしたり、話しやすい言葉遣いを心がける等の配慮にも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れとして施設で提供している内容はあるが、気分や体調による気持ちの変化を考慮し、その人のペースに寄り添うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容院や出張カットを利用している。希望があれば、化粧品の購入もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて、山菜や行事ならではのメニューを提供している。準備の段階での皮むきや煮る等の作業を、職員見守りのもと、入居者様が行っている。	ホーム独自の「夢叶えます」の取り組みにより希望料理を提供し、利用者が食事を楽しめるように支援している。ホームでは毎回食事の写真を撮ってファイルに綴じ、家族に見ていただいたり、振り返りや今後の参考にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日記録し、施設職員や訪問看護師で情報を共有できるようにしている。また、無理のない範囲で摂取を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせ、見守りからガーゼで拭き取る等の介助を行っている。義歯洗浄剤は誤って口に入れること等も考え、職員で管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を記録し、職員間で共有している。ナプキンや尿取りパット、オムツ等を使い分け、必要であればポータブルトイレも使用し、本人の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンに応じて事前誘導を行う等、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、声がけ時は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、周囲に気づかれないように小声で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取を促し、散歩等で体を動かすことを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴前に本人の意向を確認し、気分や体調に合わせて、入浴日や入浴順を調整している。最低でも週2回の入浴とし、入浴日以外は足浴を行っている。	入浴は基本的に週2回、利用者の意向を取り入れて、楽しい入浴となるように支援している。また、体調が悪い時は、清拭や足浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせている。夜間眠れない等の状況が続くようであれば、日中の活動を多くしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員間で共有している。また、受診内容も共有できるようにしており、薬の変更理由等も確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備や掃除といった作業で、それぞれができる役割を職員がお願いしている。入居前から行っていた裁縫や習字等の趣味は、入居してから継続して行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画での外出はもちろん、近隣の散歩やコンビニへの買い物を行っている。また、外出は御家族へも協力をお願いしている。	日常的にできるだけ外出できるように支援しているが、現在はコロナ禍のため、近所のコンビニへの買い物等で外に出ており、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、本人が自己管理するか、施設で預かるかを確認している。施設で預かる場合は本人や御家族の希望時に使用している。預かり金額は月1回、御家族に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、施設の電話を使用することができる。また、個人で携帯電話を使用している人もいる。毎年、年賀状も御家族へ出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度等)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の飾り付けは入居者様と職員で作成し、掲示している。館内以外でも過ごすことができ、各棟のテラスへはホールから出入りできる。	ホールはウッドデッキ・テラスから日差しが入り、十分な明るさが保たれ、開放感がある。また、ホーム内は季節を感じることができるよう、ハロウィン等、季節に応じた手作りの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやテラスには椅子とテーブルを設置しており、入居者様同士でゆっくりと過ごすことができるようにしている。また、各居室内で談話することも特に制限していない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使用していた馴染みの物があるか確認している。特に支障がなければ、家で使っていた時のように持って来て、使用してもらっている。	居室には家族の写真や人形、置き物等、多様な持ち込みがなされている。また、持ち込みが少ない場合は利用者と相談し、安心して穏やかに生活ができるよう、職員が居室作りをお手伝いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりが設置され、廊下は段差がない造りになっており、安全に自力で移動できるようになっている。また、貼り紙や目印で、一人でも目的の場所がわかるようにしている。		